

**2023年度（令和5年度）
第1回みんなのライフスタイル応援会議
会議資料**

2023年（令和5年）10月18日
福山市企画政策部企画政策課

目次

1 人口減少の状況

2 次年度の人口減少対策の方向性（案）

3 子育てパパ活躍ウィーク2023について

（参考資料）

4 現状分析データ等

1 人口減少の状況

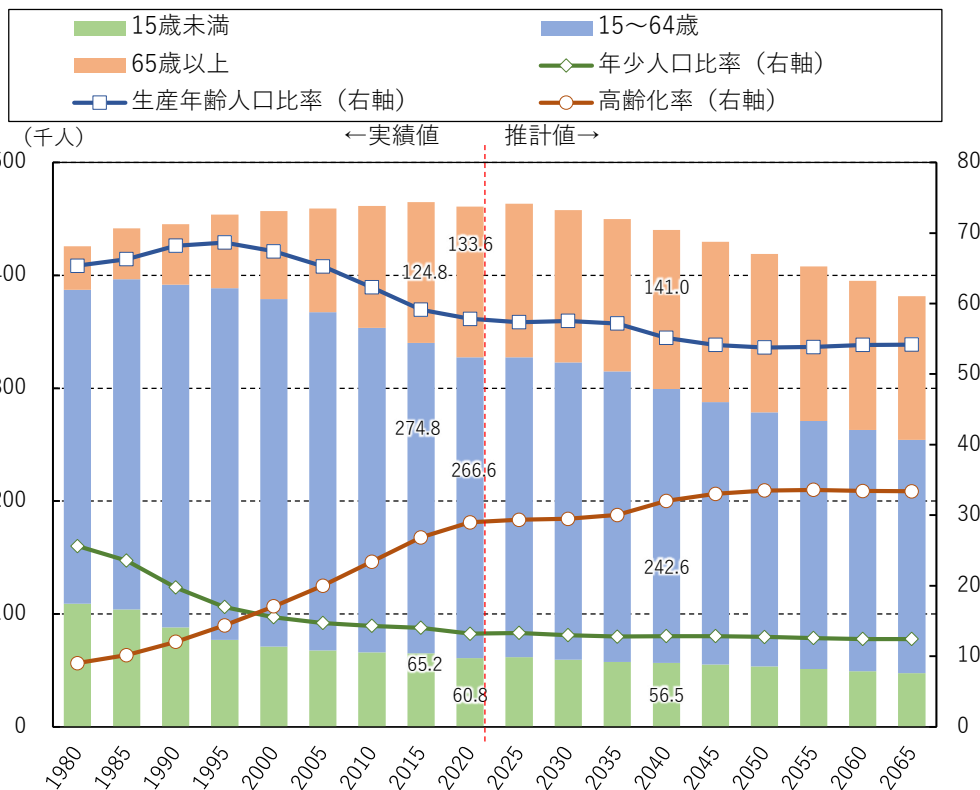
1-1. 人口減少の状況

- 福山市の人口は、**2020年（令和2年）**の国勢調査で**460,930人**。
（1940年（昭和15年）以来の減少）
- また、2023年（令和5年）2月末で住民基本台帳における人口が、**46万人を割り込んだ**。
（9月末の人口は、458,587人）
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、**2040年（令和22年）には44万人まで減少**すると予測されている。
- 人口減少の加速度的な進行は、**企業活動の縮小や生活利便性の低下、地域の魅力の低下**といった悪循環が生じ、**更なる人口減少を招く恐れ**がある



人口減少の抑制が急務

【福山市の将来人口推計グラフ（年齢3区分別）（外国人を含む）】

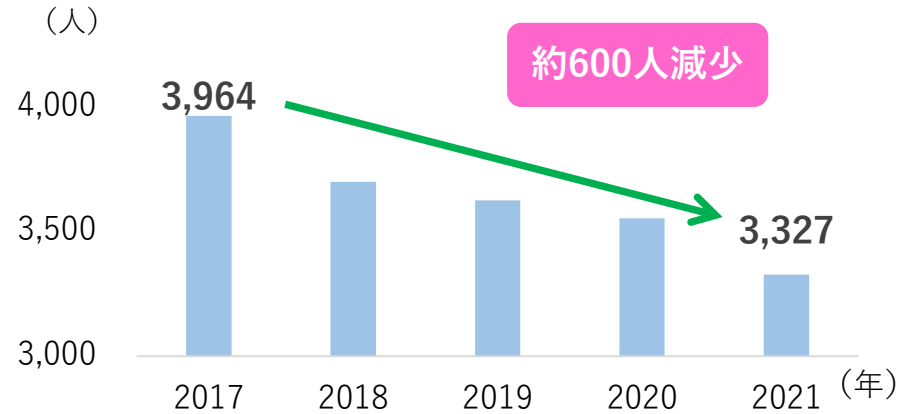


資料：総務省「国勢調査」，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30（2018）年推計）
 ※2020年までは国勢調査の実績値（年齢3区分人口は年齢不詳を按分した数値），2025年以降は推計値

1 - 2. 出生数の減少

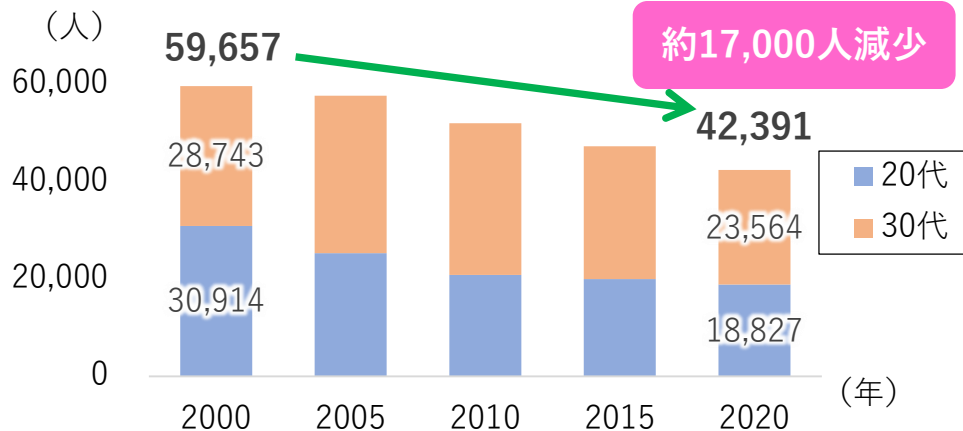
- 出生数は、**直近5年間で約600人減少**。
- 合計特殊出生率は全国や広島県と比べて高い数値を維持しているものの、**若い世代の女性の数が減少**している。
(20歳代・30歳代女性の人口は20年間で約17,000人減少)

【出生数 (日本人のみ)】



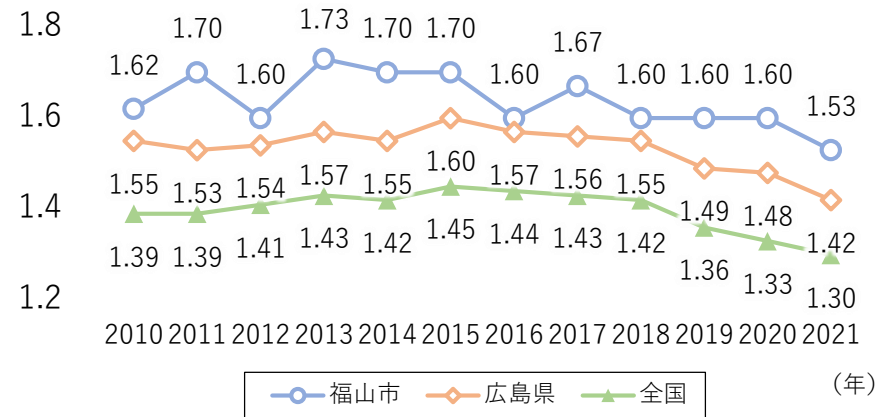
資料：福山市「福山市人口動態」

【20歳代・30歳代女性の人口 (日本人のみ)】



資料：総務省「国勢調査」

【合計特殊出生率 (日本人のみ)】

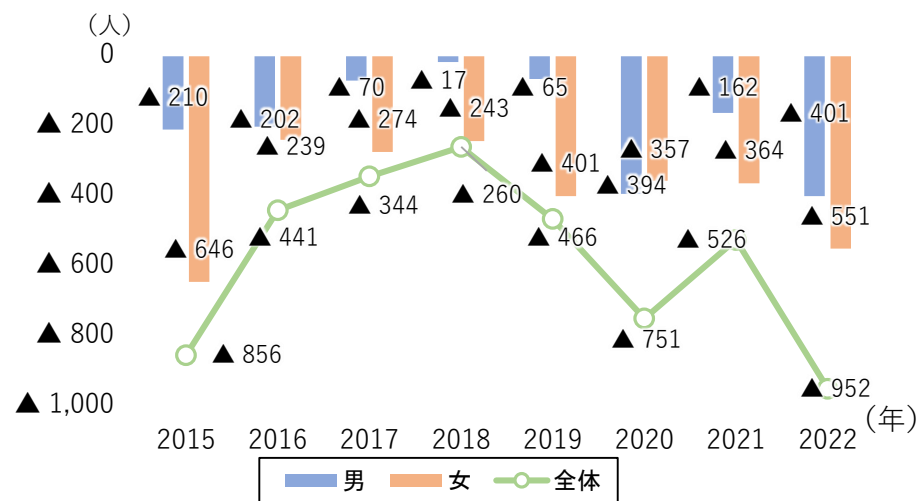


資料：福山市「福山市人口動態」

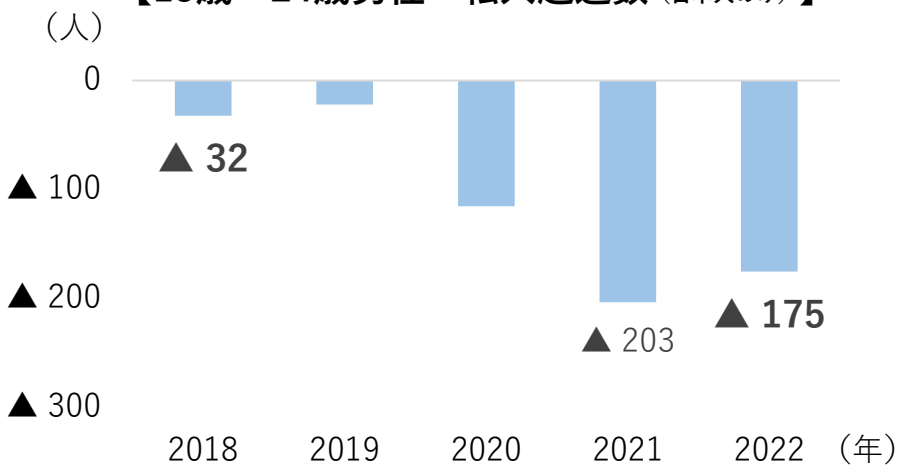
1-3. 転出超過の拡大

- 2022年（令和4年）は、**2015年（平成27年）**以降で最も大きな転出超過
- 特に、**15歳～24歳の転出超過が大き**く、その中でも**女性の転出超過が大き**くなっている。

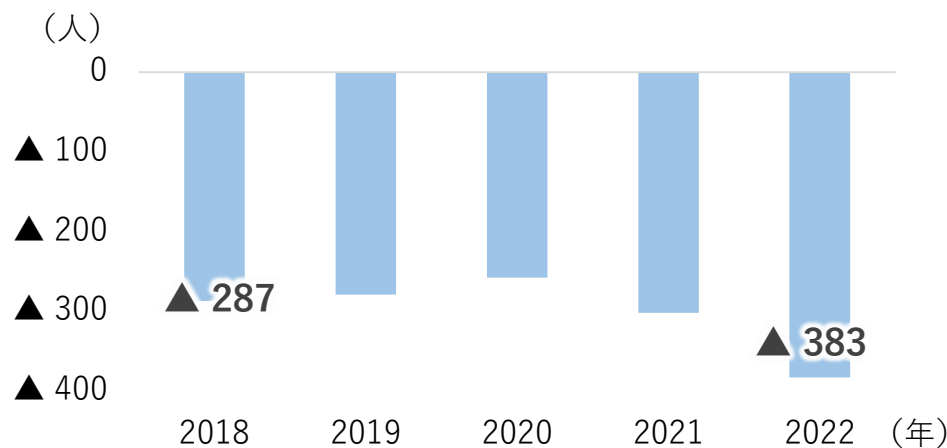
【転入超過数の推移（性別）（日本人のみ）】



【15歳～24歳男性 転入超過数（日本人のみ）】



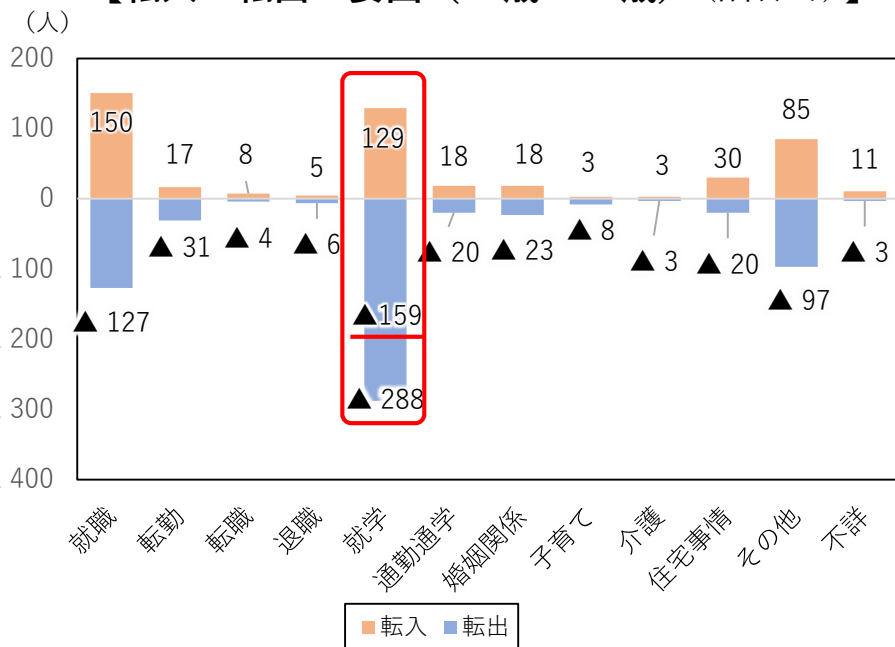
【15歳～24歳女性 転入超過数（日本人のみ）】



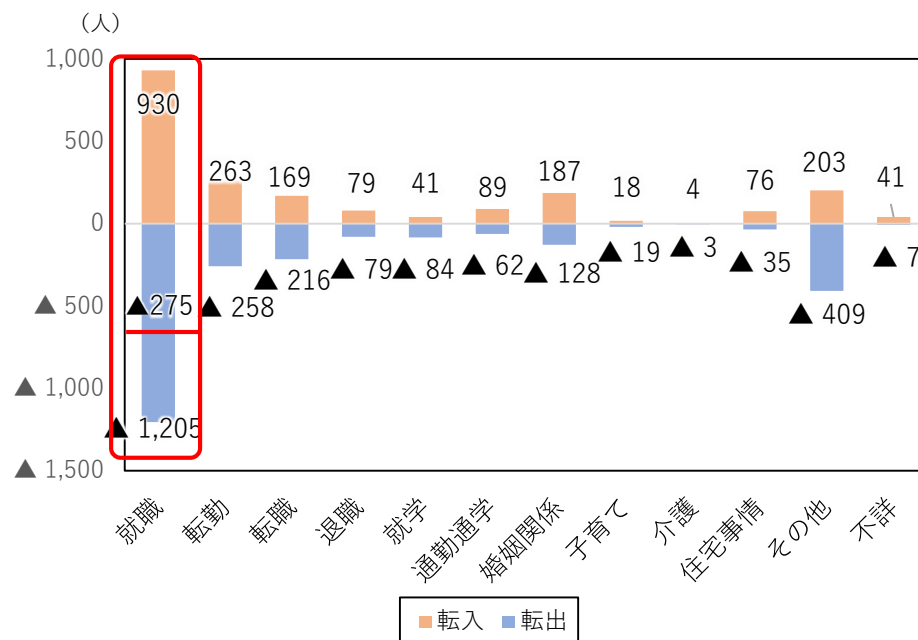
1-4. 転入・転出の要因

- 年代別の転出入の理由は、**15歳~19歳は就学による転出超過**が大きくなっている。
(高校卒業時に**約6割が市外に進学**)
- また、**20歳~24歳は就職による転出超過**が大きくなっている。

【転入・転出の要因（15歳～19歳）（日本人のみ）】



【転入・転出の要因（20歳～24歳）（日本人のみ）】

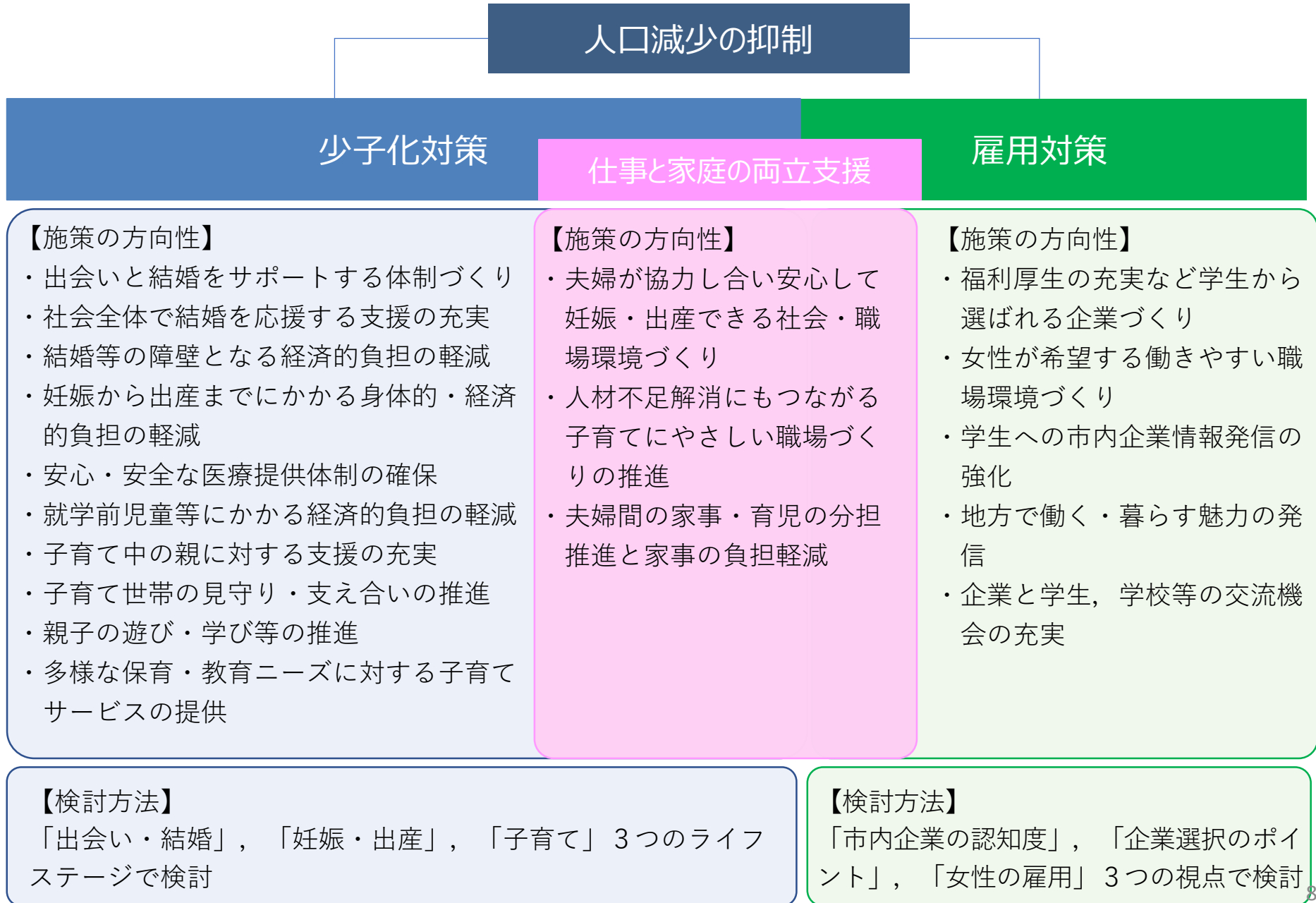


資料：広島県「人口移動統計」（2022年1月～2022年12月）から作成

※広島県「人口移動統計」の月報を福山市で集約したもの。理由別移動者数は任意調査のため、総務省「住民基本台帳移動報告」に基づく福山市の転入数・転出数（日本人のみ/2022年）に合致するよう補正を行い理由別移動者数を推計した。

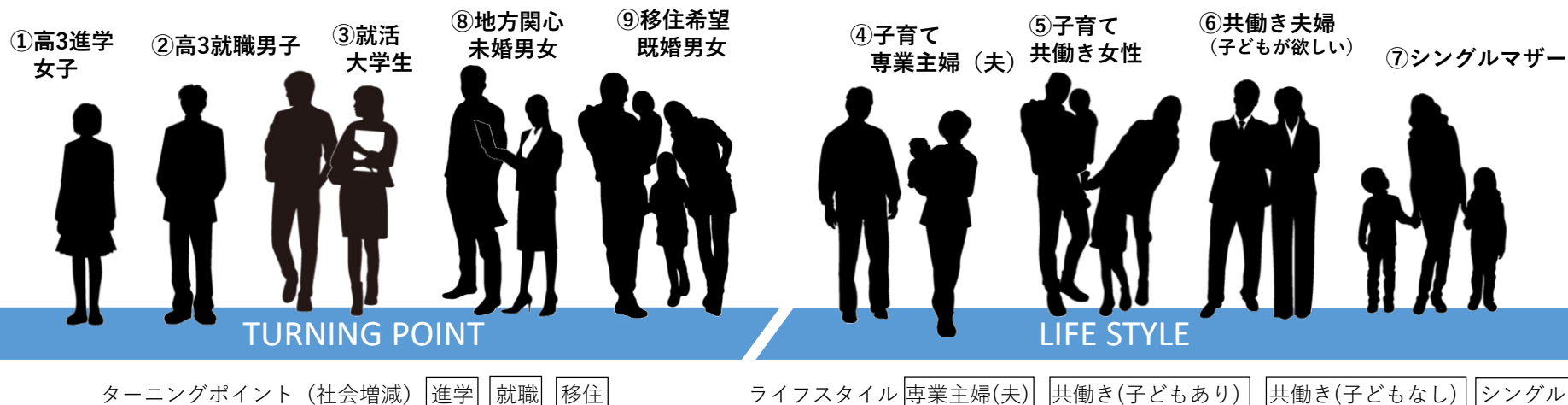
2 次年度の人口減少対策の方向性（案）

2-1. 次年度の人口減少対策の全体像



2-2. 次年度の人口減少対策の考え方

- 本市では、人口減少対策を3つのターニングポイントと4つのライフスタイルで捉え、9つのペルソナを設定し、各施策を展開している。
- 次年度へ向けた施策検討においては、出会い・結婚前や小中学生など現在のペルソナと合致していない視点がある。そのため、人口減少対策アクションプラン2024については、ペルソナの見直しを検討したうえで、施策を構築する必要がある。




ペルソナの見直し検討・施策の構築



人口減少対策アクションプラン2024の策定

2-3. 次年度の人口減少対策の方向性（少子化対策）

※  は仕事と家庭の両立支援に係るもの

出会い・結婚

妊娠・出産

子育て

就学前

就学後

未婚化・晩婚化の解消に向けた 出会い・結婚支援策の充実

希望の子どものかねるための 子育て支援策の強化

出会いと結婚をサポートする体制づくり

（現状）

- 結婚に前向きだが、適当な人にめぐり合っていない
- 職場や友人を通じた出会いは減少。ネットでの出会いは増加
- 職場や学校などの対面での出会いを希望
- 結婚相手の条件には人柄や家事・育児の能力や姿勢などを重視

社会全体で結婚を応援する支援の充実

（現状）

- 女性の結婚したくない理由は「家事・育児等を背負うことになるから」
- 男女ともに残業が多いことによる結婚後の家事への不安を抱えており、働き方改革の推進が必要
- 結婚後に発生する費用や家事・育児など、将来が不安

結婚等の障壁となる経済的負担の軽減

（現状）

- 結婚にあたって、経済的不安を抱えている人は多い
- 奨学金の返済など経済的負担で結婚・出産等ができない

夫婦が協力し合い安心して妊娠・出産できる社会・職場環境づくり

（現状）

- 不妊治療と仕事の両立に向けた職場づくりが進んでいない

妊娠から出産までにかかる身体的・経済的負担の軽減

（現状）

- 不妊治療が受けにくい理由は「治療費の負担が大きいから」
- 出産費用の助成や妊婦健診無料化を求める人が多い

安心・安全な医療提供体制の確保

（現状）

- 分娩取扱医師や小児科医師などが少ない
- 分娩取扱医療機関も減少

人材不足解消にもつながる子育てにやさしい職場づくりの推進

（現状）

- 育児と仕事の両立が難しく、第1子出産後に退職する女性は多い
- 妊娠・出産の希望はあるが、仕事などに影響が出ることに不安

就学前児童等にかかる経済的負担の軽減

（現状）

- 保育費用・教育費・医療費の負担軽減を求める人が多い
- 子育てにおいて教育費用の割合は高い。奨学金の返済には長い期間を要する
- 子どもの人数に合わせて経済的負担が大きくなる

夫婦間の家事・育児の分担推進と家事の負担軽減

（現状）

- 父親の家事・育児時間は、母親と比べて極端に短い。育児休業を取得している人も少ない
- 育休取得がしやすい職場環境づくりなどが必要
- 家事・育児は母親という考えを持っている人がいる

子育て中の親に対する支援の充実

（現状）

- 子育てに休みがなく、自分の時間もない

子育て世帯の見守り・支え合いの推進

（現状）

- 祖父母との同居・近居が子育てや仕事のしやすさに大きく影響
- 祖父母や近所の人の協力が得られる地域・環境が必要

親子の遊び・学び等の推進

（現状）

- 子どもを持ちたい理由は「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」
- 室内で広い子どもの遊び場が必要

多様な保育・教育ニーズに対する子育てサービスの提供

（現状）

- 保育士確保や学童の送迎時間延長などが必要

出会い・結婚

妊娠・出産

子育て 就学前 → 就学後

出会いと結婚をサポートする体制づくり

(現状)

- 結婚に前向きだが、適当な人にめぐり合えていない
- 職場や友人を通じた出会いは減少。ネットでの出会いは増加
- 職場や学校などの対面での出会いを希望
- 結婚相手の条件には人柄や家事・育児の能力や姿勢などを重視

社会全体で結婚を応援する支援の充実

(現状)

- 女性の結婚したくない理由は「家事・育児等を背負うことになるから」
- 男女ともに残業が多いことによる結婚後の家事への不安を抱えており、働き方改革の推進が必要
- 結婚後に発生する費用や家事・育児など、将来が不安

結婚等の障壁となる経済的負担の軽減

(現状)

- 結婚にあたって、経済的不安を抱えている人は多い
- 奨学金の返済など経済的負担で結婚・出産等ができない

● 出産・子育てにかかる費用の軽減

妊娠から出産までにかかる身体的・経済的負担の軽減

(現状)

- 不妊治療が受けにくい理由は「治療費の負担が大きいから」
- 出産費用の助成や妊婦健診無料化を求める人が多い

就学前児童等にかかる経済的負担の軽減

(現状)

- 保育費用・教育費・医療費の負担軽減を求める人が多い
- 子育てにおいて教育費用の割合は高い。奨学金の返済には長い期間を要する
- 子どもの人数に合わせて経済的負担が大きくなる

子育て中の親に対する支援の充実

(現状)

- 子育てに休みがなく、自分の時間もない

● 保育サービスの充実と医療提供体制の確保

安心・安全な医療提供体制の確保

(現状)

- 分娩取扱医師や小児科医師などが少ない
- 分娩取扱医療機関も減少

多様な保育・教育ニーズに対する子育てサービスの提供

(現状)

- 保育士確保や学童の送迎時間延長などが必要

● 仕事と子育ての両立支援

夫婦間の家事・育児の分担推進と家事の負担軽減

(現状)

- 父親の家事・育児時間は、母親と比べて極端に短い。育児休業を取得している人も少ない
- 育休取得がしやすい職場環境づくりなどが必要
- 家事・育児は母親という考えを持っている人がいる

夫婦が協力し合い安心して妊娠・出産できる社会・職場環境づくり

(現状)

- 不妊治療と仕事の両立に向けた職場づくりが進んでいない

人材不足解消にもつながる子育てにやさしい職場づくりの推進

(現状)

- 育児と仕事の両立が難しく、第1子出産後に退職する女性は多い
- 妊娠・出産の希望はあるが、仕事などに影響が出ることに不安

● 気軽に相談できる環境づくり

子育て世帯の見守り・支え合いの推進

(現状)

- 祖父母との同居・近居が子育てや仕事のしやすさに大きく影響
- 祖父母や近所の人の協力が得られる地域・環境が必要

● 子どもと楽しめる場所等の創出

親子の遊び・学び等の推進

(現状)

- 子どもを持ちたい理由は「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」
- 室内で広い子どもの遊び場が必要

2-4 . 次年度の人口減少対策の方向性（雇用対策）

若者・女性の定着・人材確保に向けた雇用環境づくり

① 働きやすい企業・職場環境づくりと 情報発信強化

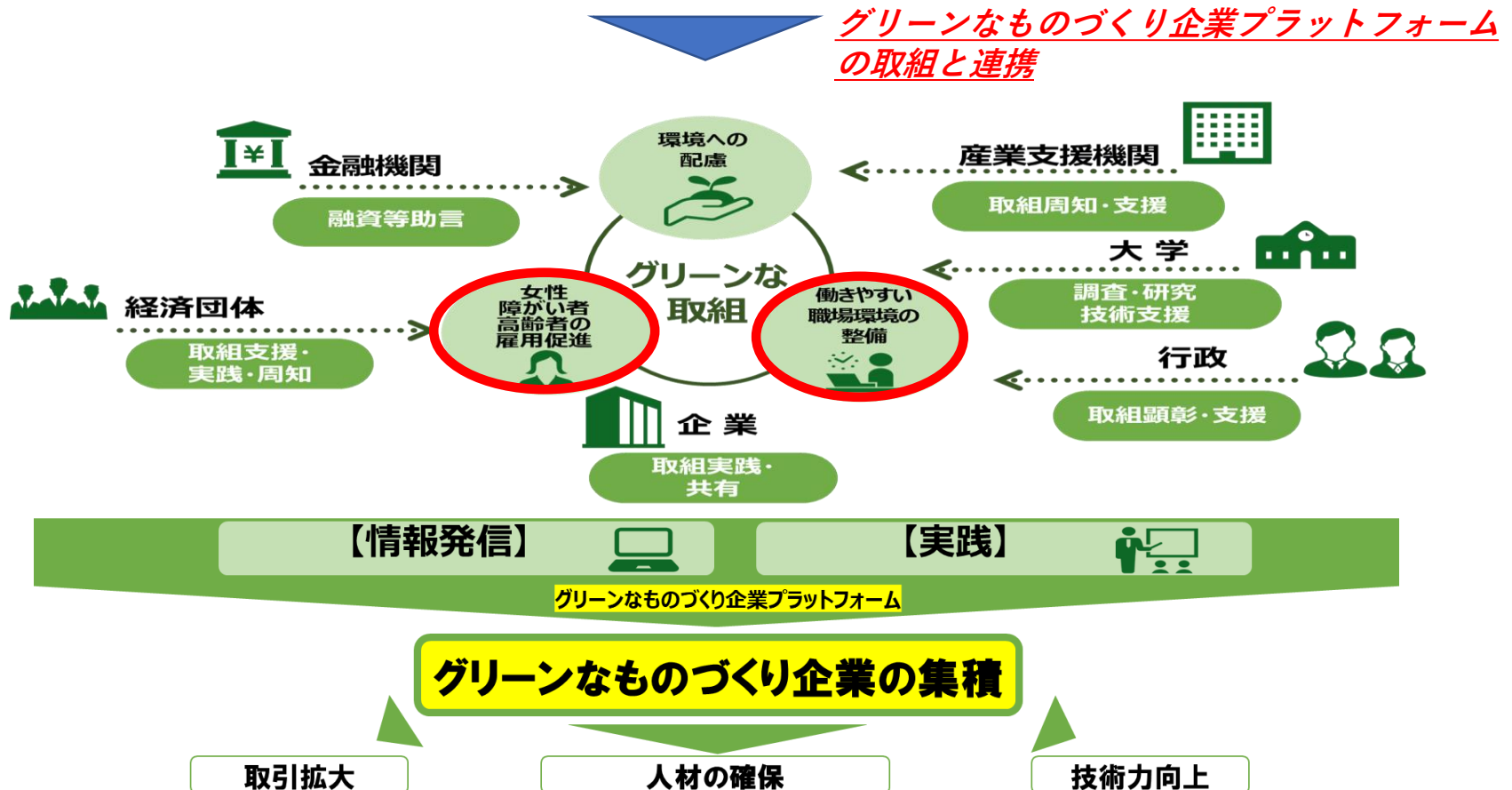
- ・ 福利厚生充実など学生から選ばれる企業づくり
- ・ 女性が希望する働きやすい職場環境づくり
- ・ 学生への市内企業情報発信の強化

② 都市魅力の向上

- ・ 地方で働く・暮らす魅力の発信

③ 地元への愛着の醸成

- ・ 企業と学生、学校等の交流機会の充実



3 子育てパパ活躍ウィーク2023について

3-1. 子育てパパ活躍ウィーク2023について

取組期間

2023年（令和5年）11月3日（金）～23日（木）

実施内容

期間中、企業は従業員への休暇取得・早めの退社を促すとともに、市内各地で親子で参加できる楽しいイベントを開催。

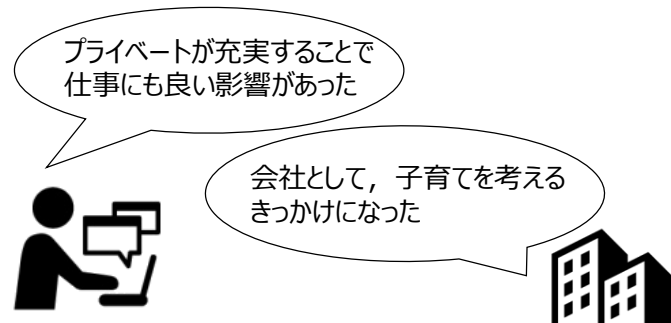
募集内容

従業員の子育て参加を推進する企業を募集中！（11月23日まで募集中）

取組イメージ

- ▶ 子育て中の従業員に休暇取得を促進
- ▶ テレワークなどを活用し、在宅勤務を実施
- ▶ ノー残業デー（ウィーク）などの設定

- 参加人数、日数等を問いません。
- 取組後、実施内容、参加者数などの実績報告をお願いする場合があります。



その他

企業名を市ホームページ、就活ふくやま（福山市就職支援サイト）、びんごライフ（備後圏域出身の学生に向けたU・Iターンサイト）に掲載します。

市ホームページ応募フォーム等で申込みください。

WEB

福山市ホームページ（<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp>）応募フォーム

申込み問合せ

問合せ

福山市保健福祉局ネウボラ推進部ネウボラ推進課

TEL：084-928-1053

MAIL：neuvola-suishin@city.fukuyama.hiroshima.jp

子育てパパ活躍ウィーク

検索



(参考)

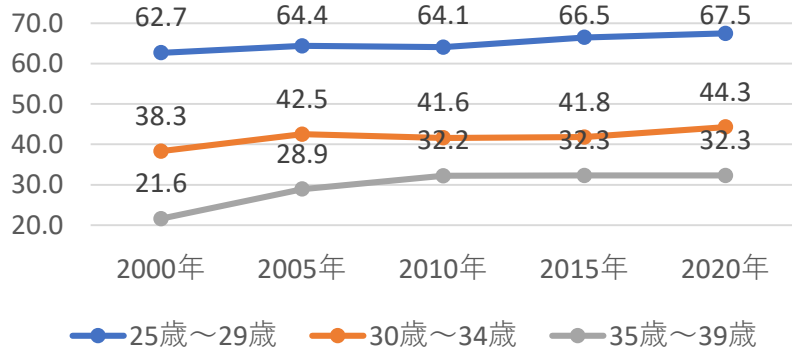
4 現状分析データ等

少子化対策 ライフステージごとの現状（出会い・結婚）

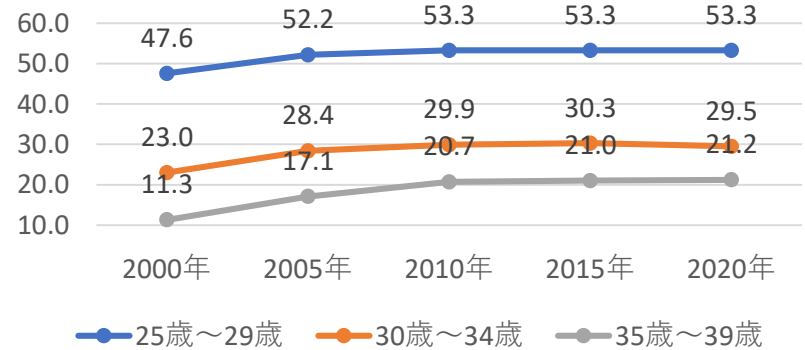
4-1. ライフステージごとの現状（出会い・結婚）

- 本市の未婚率は上昇傾向にある。特に25歳～34歳の割合が上昇し、**未婚化が進行**している。
- 全国調査では、「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者が減少しているものの、8割以上が結婚するつもりと回答。現在独身でいる理由の多くは「**適当な相手とまだめぐり合わないから**」と回答しており、**結婚に前向きな人は多いが、適当な相手にめぐり合えていない**ことが考えられる。

【男性未婚率の推移(福山市)】

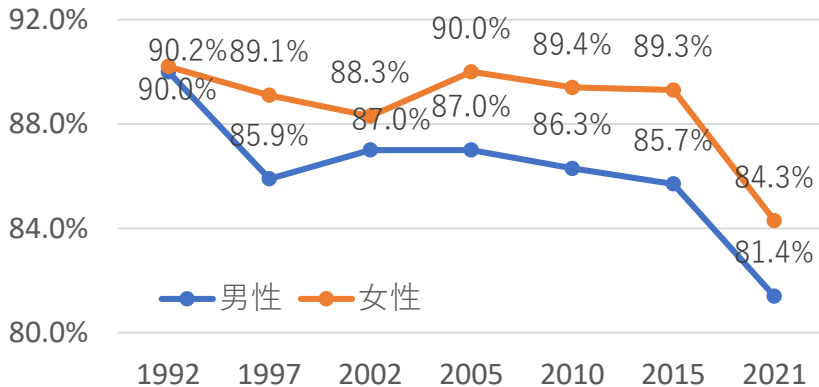


【女性未婚率の推移(福山市)】



資料:総務省「国勢調査」

【「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者(18歳～34歳)の割合】



【未婚者が挙げる結婚の利点】

- 【18歳～34歳 男性】
 - ①精神的な安らぎの場が得られる **33.8%**
 - ②自分の子どもや家族を持てる **31.1%**
- 【18歳～34歳 女性】
 - ①自分の子どもや家族を持てる **39.4%**
 - ②精神的な安らぎの場が得られる **25.3%**

【未婚者が独身でいる主な理由】

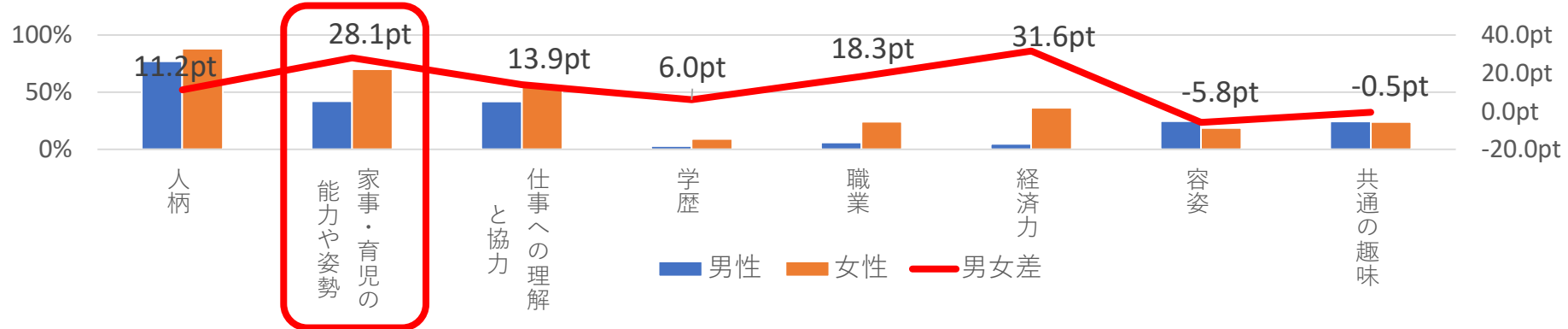
- 【25歳～34歳 男性】
 - ①適当な相手とまだめぐり合わないから **43.3%**
 - ②独身の自由さや気楽さを失いたくないから **26.6%**
- 【25歳～34歳 女性】
 - ①適当な相手とまだめぐり合わないから **48.1%**
 - ②独身の自由さや気楽さを失いたくないから **31.0%**

資料:国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」

4-2. ライフステージごとの現状（出会い・結婚）

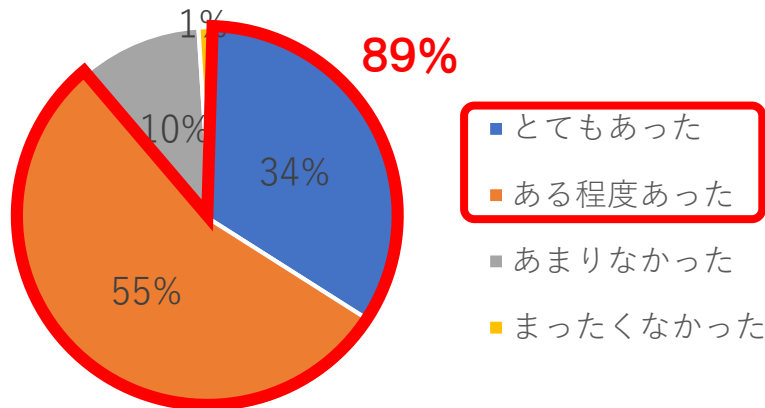
- 女性が結婚相手に求める条件として、「家事・育児の能力や姿勢」を重視する割合は高いが男性は低く、結婚に当たって、家事・育児に対する男女の考え方にはギャップがある。
- 結婚に当たって経済的不安を感じている人は、約9割。結婚に伴う経済的不安で思い浮かべるものとして「結婚資金」「結婚生活のための住居」を挙げる人が多い。

【結婚相手の条件として重視する項目(18歳～34歳未婚者)】

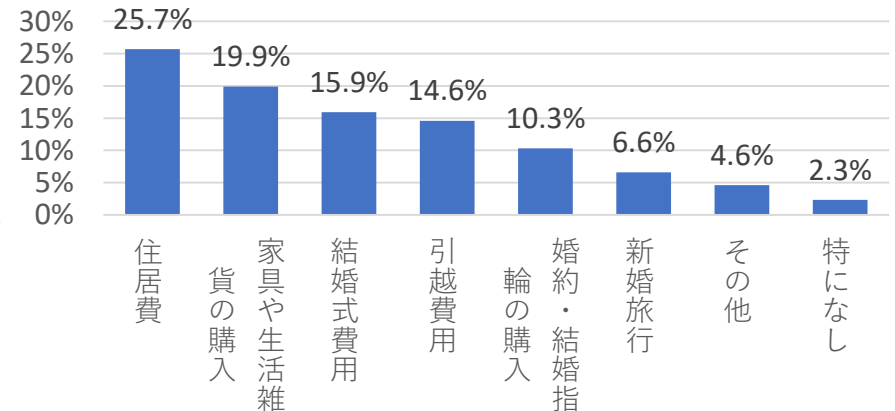


資料: 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」

【結婚に当たって経済的不安があった人の割合】



【結婚に伴う経済的不安で思い浮かべるもの】



資料: こども家庭庁「令和3年度結婚新生活支援事業に係るアンケート調査」

4 - 3. ライフステージごとの現状（出会い・結婚）

【大学生・社会人の声】

対象：市内大学の学生，民間企業の若手職員（計21人）

日程：2023年（令和5年）6月12日，7月3日，7月6日 方法：対面での座談会形式

○出会いの機会の現状

【大学生】

- ・コロナの影響で飲み会や合コンが減り，出会いがない。
- ・学部内やバイト先だけでは，出会いが限られる。
- ・マッチングアプリは「婚活」のイメージが強く，抵抗感がある。

【社会人】

- ・社会人になって学生の頃より出会いが減った。
- ・職場内には同年代の未婚者が少なく出会いがない。
- ・アプリで出会い結婚した知り合いもいる。

○理想とする相手

【大学生】

- ・収入よりも価値観が合うかを重視する。
- ・家事の分担ができる人
- ・安定した職業に就いている人

【社会人】

- ・趣味や価値観が合う人
- ・金銭感覚や生活するうえでの感覚が合う人
- ・家事分担などについて話し合いができる人

○理想とする出会い方

【大学生】

- ・共通の趣味（ライブやスポーツサークル，カフェなど）を通じた出会いや友人からの紹介で出会いたい。
- ・同窓会という形での出会いも良いと思う。

【社会人】

- ・共通の趣味（スポーツ観戦やキャンプなど）を通じた出会いや友人からの紹介で出会いたい。
- ・同窓会や異業種交流会など，なるべく自然に出会いたい。

○結婚に対する考え

【大学生】

- ・30歳までに結婚したいと思っている。
- ・結婚は仕事に慣れて，経済的にも安定してからが良い。
- ・結婚したら希望どおりに働けないのではないかと不安。

【社会人】

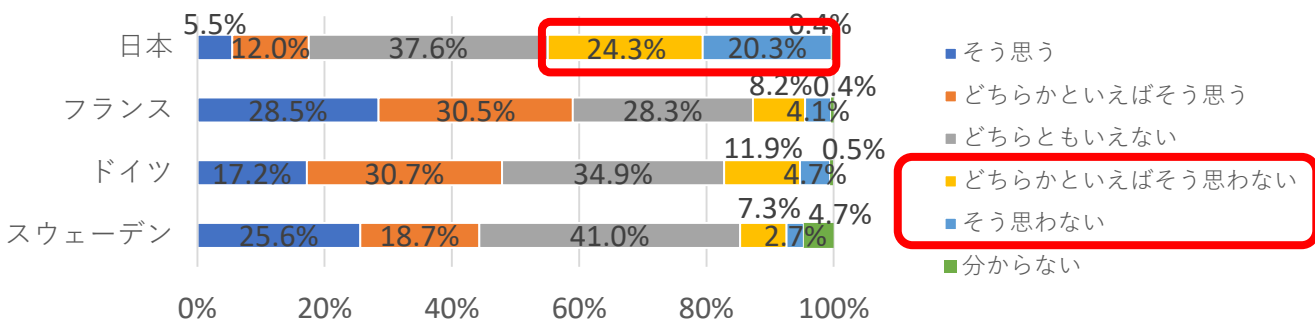
- ・早めに結婚したいと思っているが，40歳までに結婚できなかったら，結婚しないかもしれない。
- ・結婚することで自分の時間が減るのが不安。

少子化対策 ライフステージごとの現状（妊娠・出産）

4-4. ライフステージごとの現状（妊娠・出産）

- 日本の不妊治療の環境は受けやすいと思わない人が、諸外国と比較して多く、主な理由は経済的負担である。
- 不妊治療と仕事の両立ができなかった女性は43%。また、不妊治療について職場に伝えていない女性は5割以上と多く、職場での普及啓発が実施されていないことが要因の一つとして考えられる。

【不妊治療が受けやすい環境だと思うか】



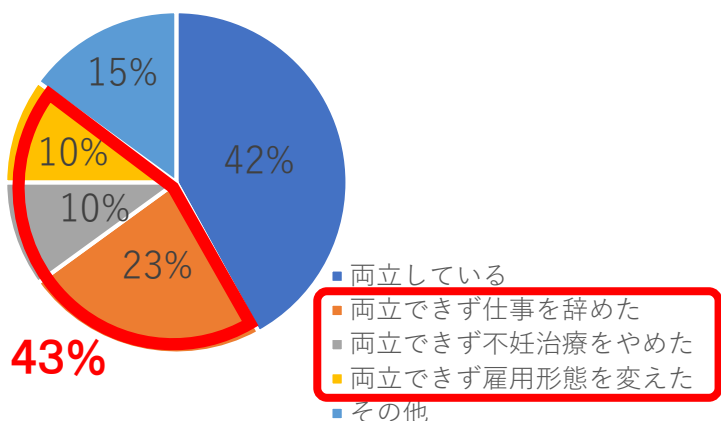
【受けにくい主な理由】

- 【日本の回答】
- ①治療費の負担が大きいから 91.8%
 - ②仕事に影響するから 49.0%
 - ③身体的な負担が大きいから 47.1%

※2022年4月から不妊治療は保険適用

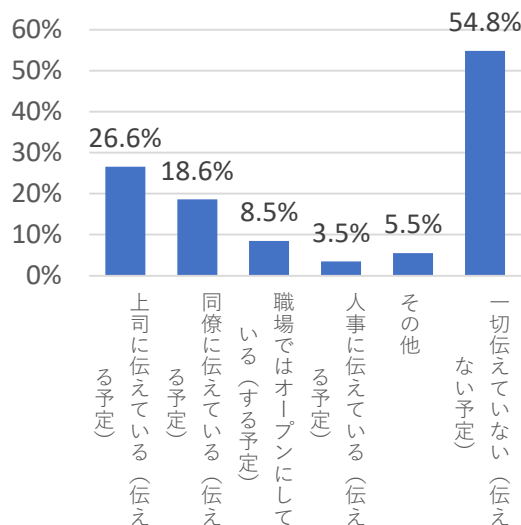
資料：内閣府子ども・子育て本部「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査」

【不妊治療と仕事の両立ができなかった女性の割合】



43%

【不妊治療の職場への共有(女性)】



【企業での不妊治療と仕事の両立に関する普及啓発の実施状況】

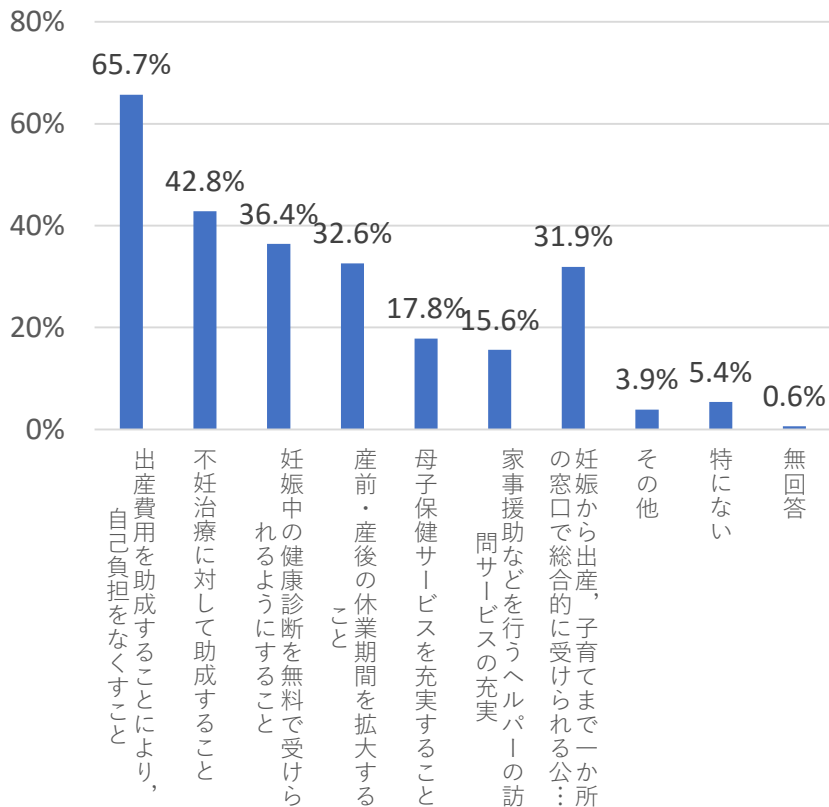
- ①実施していない 97.8%
- ②普及啓発資料の整備・公表 1.6%
- ③従業員向け研修の実施 0.5%
- ④管理職向け研修の実施 0.3%

資料：厚生労働省「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査研究事業調査」

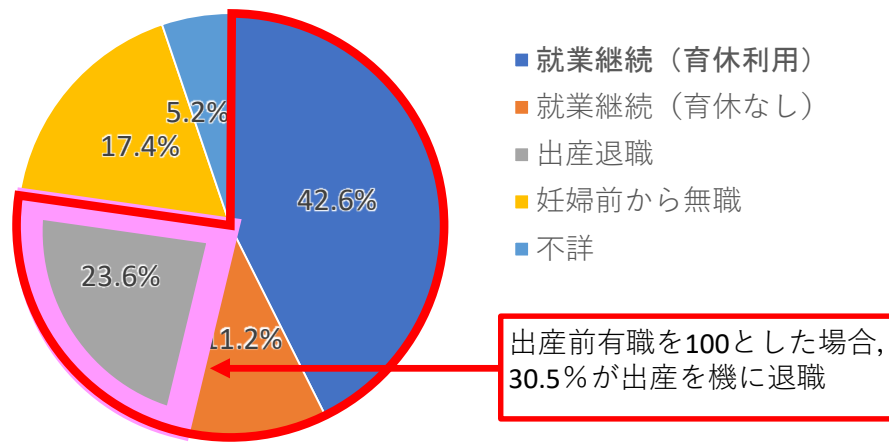
4-5. ライフステージごとの現状（妊娠・出産）

- 妊娠・出産期に求められる負担軽減策としては、出産費用の助成や妊娠中の健康診断の無料化などが多い。
- 出産前に就業していた女性の約3割が第1子出産後に退職している。
- 妊娠・出産を理由とした具体的な離職理由としては、「仕事と育児の両立が難しかったため」が多い。

【妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策として重要な項目】



【子どもの数別にみた出産前後の妻の就業状況(第1子)】



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」

【妊娠・出産等を理由とした主な具体的な離職理由(女性離職前正社員)】

- ①仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しかったため 45.8%
- ②家事・育児に専念するため 26.8%
- ③妊娠・出産前と比べて、仕事の内容や責任等について、やりがいを感じられなくなった(なりそうだった)ため

資料：日本能率協会総合研究所(厚労省委託事業)「令和4年度 仕事と育児の両立等に関する実態把握のための調査研究事業」

資料：内閣府子ども・子育て本部「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査」

4-6. ライフステージごとの現状（妊娠・出産）

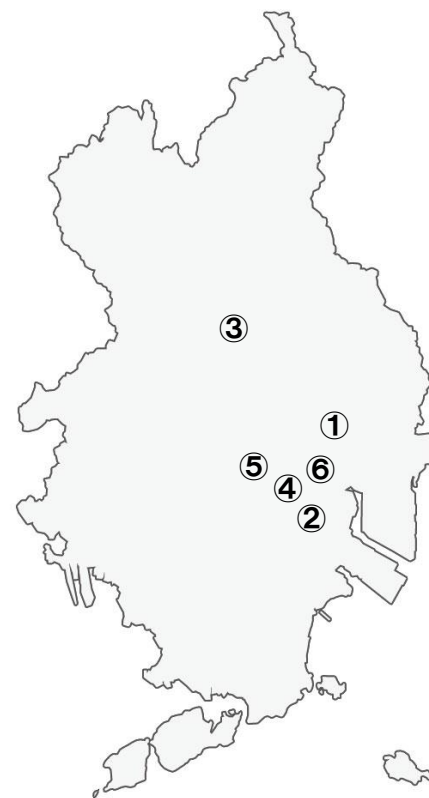
- 安心して子どもを産み育てるための医療提供体制として、産科・小児科の確保は必須であるが、2023年度の福山・府中二次保健医療圏の医師偏在指標においては、全国や広島県、他の医療圏と比べて小児科医師や分娩取扱医師が少ない状況にある。
- 本市の分娩取扱医療機関は、現在6施設まで減少している。（2023年4月1日時点は8施設）

【都道府県・二次保健医療圏別 医師偏在指標(2023年度)】

区分		医師	小児科医師	分娩取扱医師
都道府県	全国	255.6	115.1	10.6
	広島県	254.2	101.1	8.6
	岡山県	299.6	124.3	10.3
二次保健医療圏	広島	298.9	104.7	9.9
	広島西	239.1	148.5	3.9
	呉	266.7	116.6	9.9
	広島中央	200.4	75.4	6.0
	尾三	198.2	93.4	9.4
	福山・府中	201.3	84.4	7.6
	備北	219.8	107.5	9.1
	県南西部	292.8	121.6	12.8

【福山市の分娩取扱医療機関】

	医療機関名
①	福山市民病院
②	福山医療センター
③	中国中央病院
④	小池病院
⑤	松岡病院
⑥	白河産婦人科



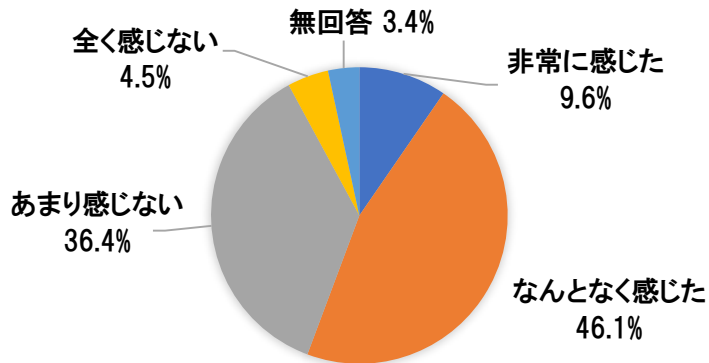
資料：厚生労働省「医師偏在指標(都道府県別・二次医療圏別)」
 厚生労働省「小児科医師偏在指標(都道府県別・小児医療圏別)」
 厚生労働省「分娩取扱医師偏在指標(都道府県別・周産期医療圏別)」

少子化対策 ライフステージごとの現状（子育て）

4-7. ライフステージごとの現状（子育て）

- 市民の半数以上が、子育てに対して不安や負担を感じ、その主な理由は経済的負担となっている
- 理想の子どもを持つための条件として、保育費用・教育費・医療費の負担軽減を求める人が多い
- 全国調査や本市の調査においても、理想の子ども数を持たない理由として「経済的負担」を挙げる割合が高い。

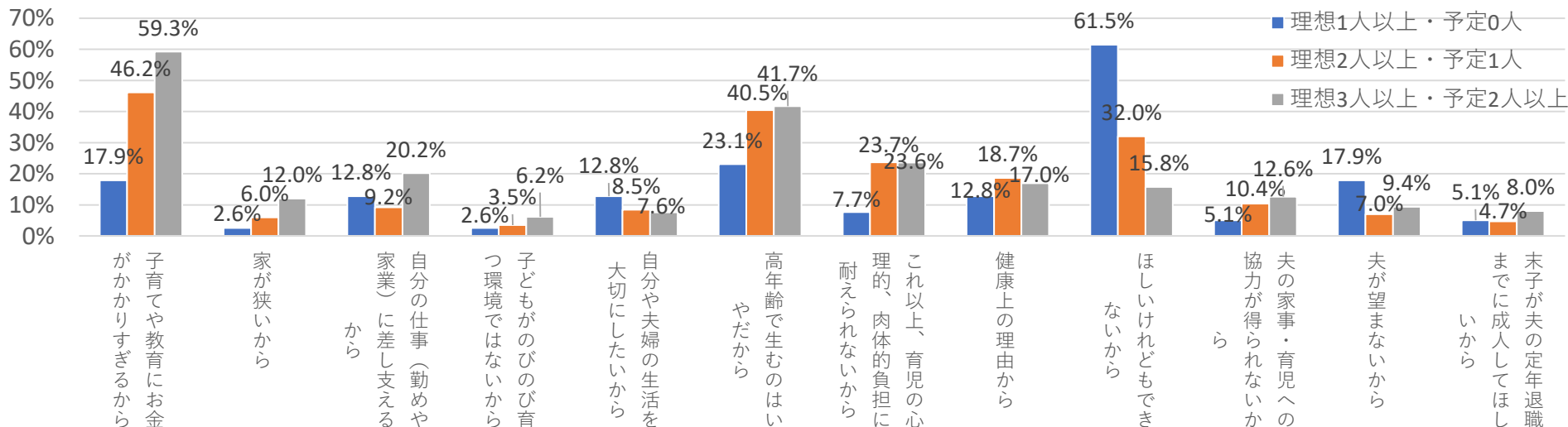
【子育てに関して不安や負担を感じた人の割合】



1位	子育てや教育にお金がかかりすぎること
2位	病気や発育・発達に関すること
3位	こどもとの時間を十分にとれないこと

資料：福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」

【理想の子ども数を持たない理由(理想と予定子ども数の組み合わせ別)】

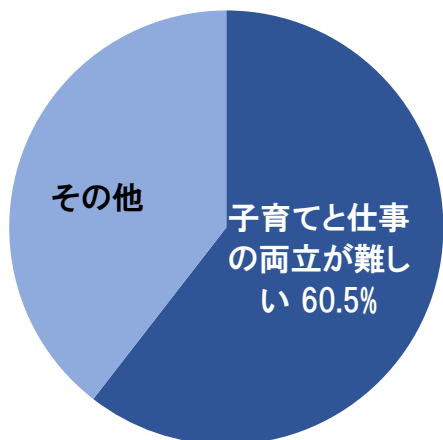


資料：国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」

4-8. ライフステージごとの現状（子育て）

- 女性の約6割が子育てと仕事の両立が難しいと感じている。
 - 父親の家事・育児の時間は母親に比べ、極端に短い。育児休業を取得している人も少ない。
- 全国及び広島県の調査において、家事・育児の時間が父親は極端に短く、また、本市の調査で約9割の父親が育休を取得していない状況がわかる。

【子育てと仕事の両立】



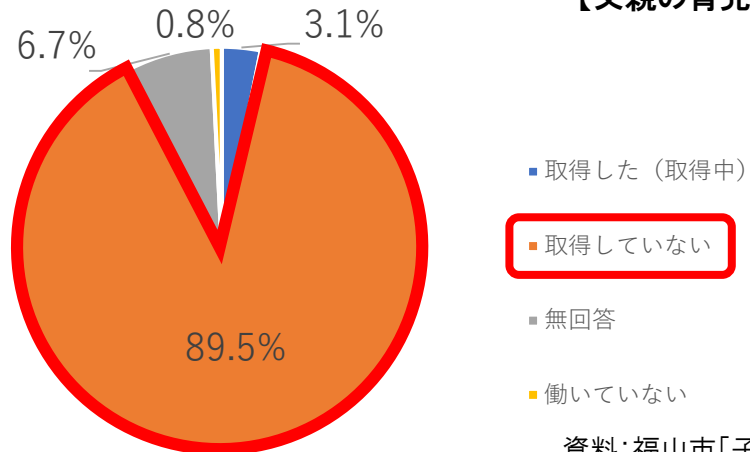
資料：福山市「福山市男女共同参画に関する市民意識調査」

【子どもをもつ夫婦の家事・育児時間(週全体平均)】

		全国	広島県
家事時間	夫	30分	23分
	妻	2時間58分	2時間36分
育児時間	夫	1時間 5分	1時間 3分
	妻	3時間54分	3時間39分

資料：総務省・広島県「令和3年社会生活基本調査」

【父親の育児休業取得の状況(就学前児童の保護者)】



【取得していない理由】

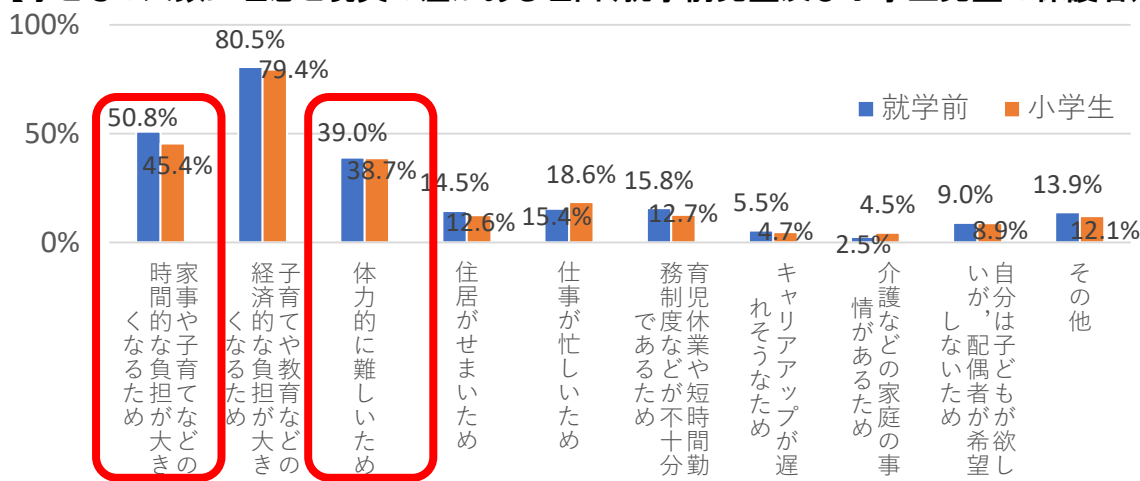
- ①仕事が忙しかった 31.5%
- ②職場に育児休業を取りにくい 雰囲気があった 29.7%
- ③配偶者が育児休業制度を利用した 24.3%

資料：福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」

4-9. ライフステージごとの現状（子育て）

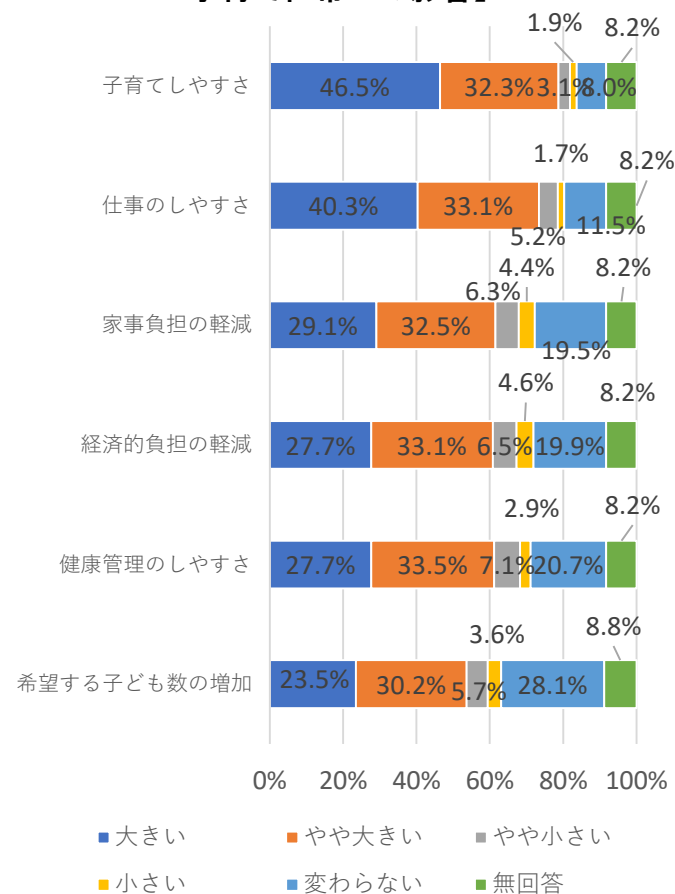
- 理想の子ども数を持たない理由として「家事・育児の負担」「体力面」を挙げる割合は高いが、地域子育て支援拠点等を知っているにもかかわらず利用している人は少ない。
- 祖父母との同居・近居が子育てや仕事のしやすさに大きく影響している。

【子どもの人数に理想と現実の差がある理由(就学前児童及び小学生児童の保護者別)】



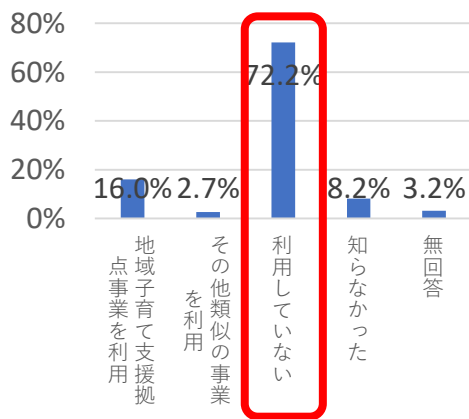
資料：福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」

【祖父母との同居・近居による子育て世帯への影響】



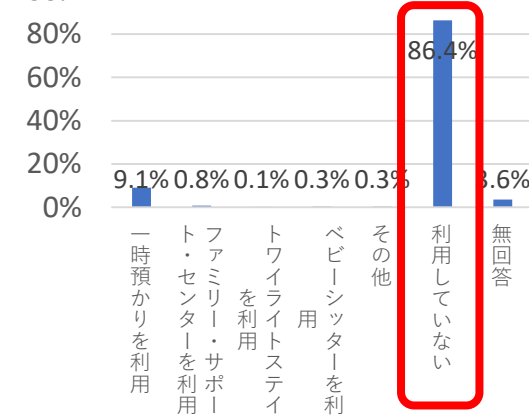
資料：福山市「第2回福山市市政モニター調査」

【地域子育て支援拠点事業等の利用状況(就学前児童の保護者)】



資料：福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」

【一時預かり等の利用状況(就学前児童の保護者)】



4-10. ライフステージごとの現状（子育て）

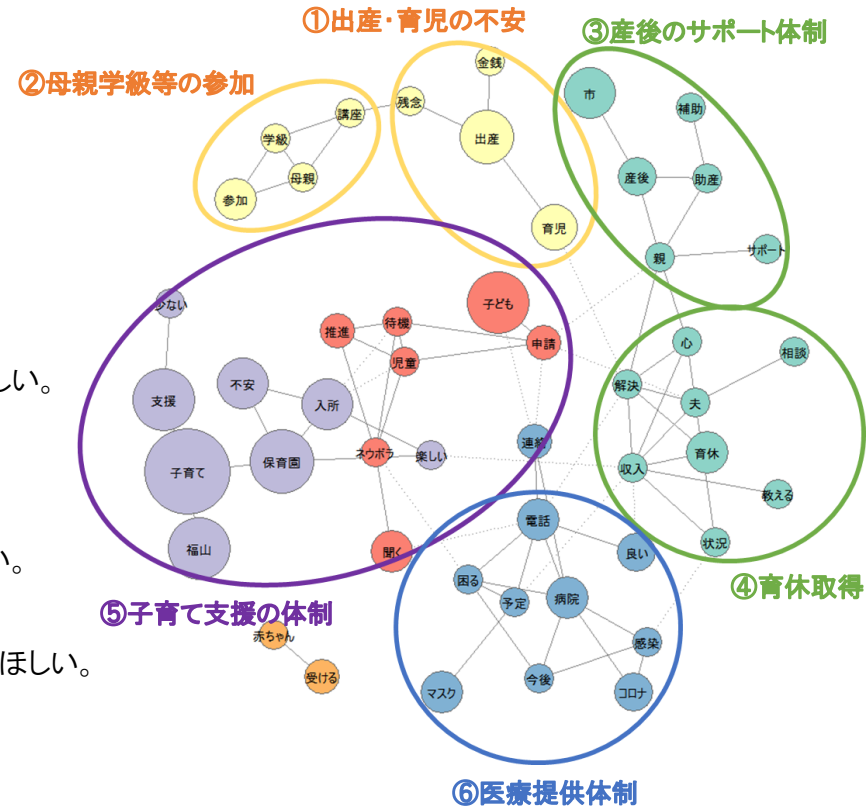
妊産婦の声

対象：2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）1月19日に出産した又は妊娠届を提出した人（約4,500人）
方法：出産・子育て応援金に係るアンケート

【アンケート調査における自由記載】

主な意見

- ① 出産前から子育てや金銭面に不安がある**
 - ・出産後に金銭的な心配がある。（出産費用が不明確、保育料等）
 - ・コロナで子育て・出産講座を受けられなかったのが残念。
- ② 出産・子育ての講座に参加したい**
 - ・母親学校に参加したいと思っている。土日祝に参加できるものが知りたい。
 - ・親子参加のレクリエーションがたくさんあると嬉しい。
- ③ 産後のサポート体制を充実してほしい**
 - ・産後サポートを受けられず、1人での育児が大変だった。
 - ・親が近くにいるがプロではない。プロから助言が受けられるよう手厚くしてほしい。
- ④ 育休取得の際に障壁がある**
 - ・夫が育休を取ってくれたので、子育ての大変さを共有できたが、収入が減り、思うように貯蓄ができない。
 - ・夫は子育てに参加するため育休を申請したいが、職場の理解が得られない。
- ⑤ 子育てがしやすくなるよう支援してほしい**
 - ・市が運営する子育て支援場所が少ない。子育て世帯への支援を増やしてほしい。
 - ・保育園の入所が難しい。保育園に入れるか不安。
 - ・様々な申請があり、1人で行うのは大変。
- ⑥ 医療提供体制を充実してほしい**
 - ・超高齢出産ということもあり、市外の病院に受診している。
 - ・体調が悪くなった場合、どこの病院に連絡したらよいかわからない。

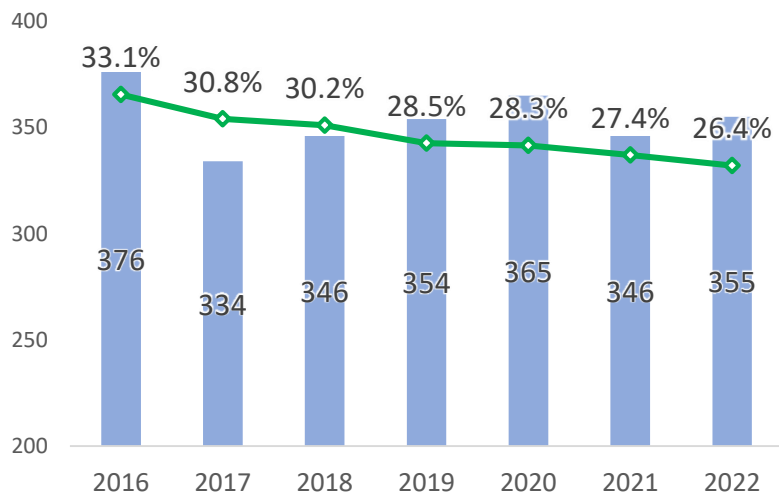


雇用対策 3つの視点ごとの現状

4-1-1. 雇用の3視点の現状（市内企業の認知度）

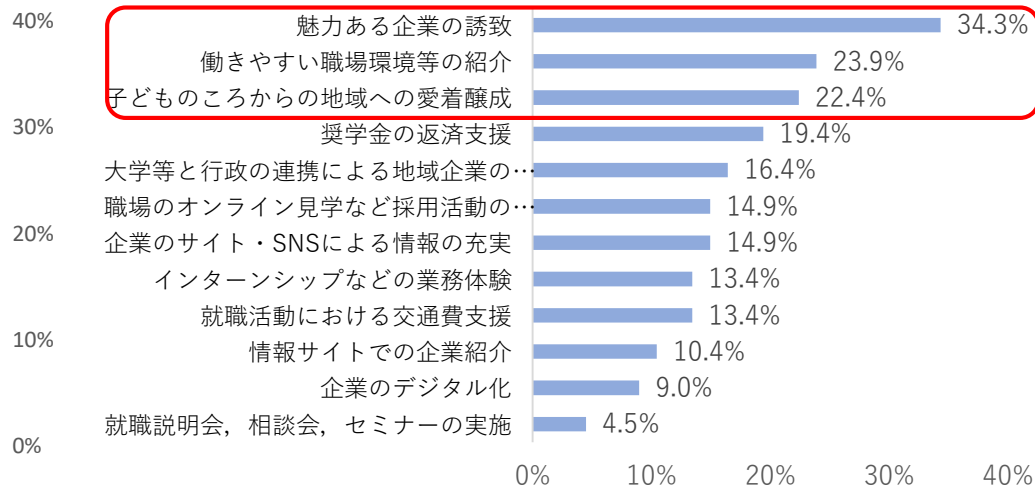
- 市内大学生の市内就職率は約3割だが、低下傾向にある。
- 市内企業に就職する際に不足していると感じることは、「魅力ある企業の誘致」に加え、「働きやすい職場環境等の紹介」や「子どものころからの地域への愛着醸成」と回答した人の割合が多い。
- 市内大学生へのアンケートによると、市内に実家があり市外に就職した人は、市内に実家があり市内に就職した人と比べて、市内企業を5社未満しか知らない人が2倍以上おり、市内企業の情報が大学生に伝わっていないことが考えられる。

【市内大学生の市内就職者数と市内就職率】



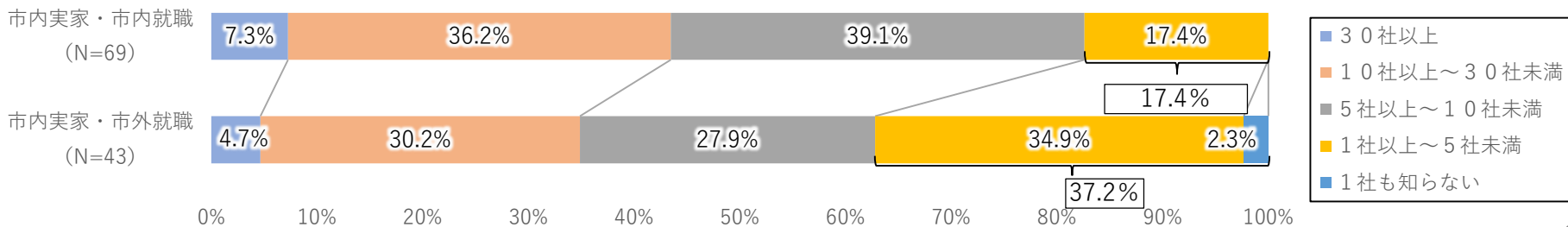
資料：福山市「大学生の就職に関する調査」

【社会人になって感じる市内企業に就職する際に不足していること（3つまで選択）】



資料：福山市「福山地方雇用対策協議会会員企業の従業員（新卒採用後5年以内の従業員）への意識調査」

【市内企業の認知度】

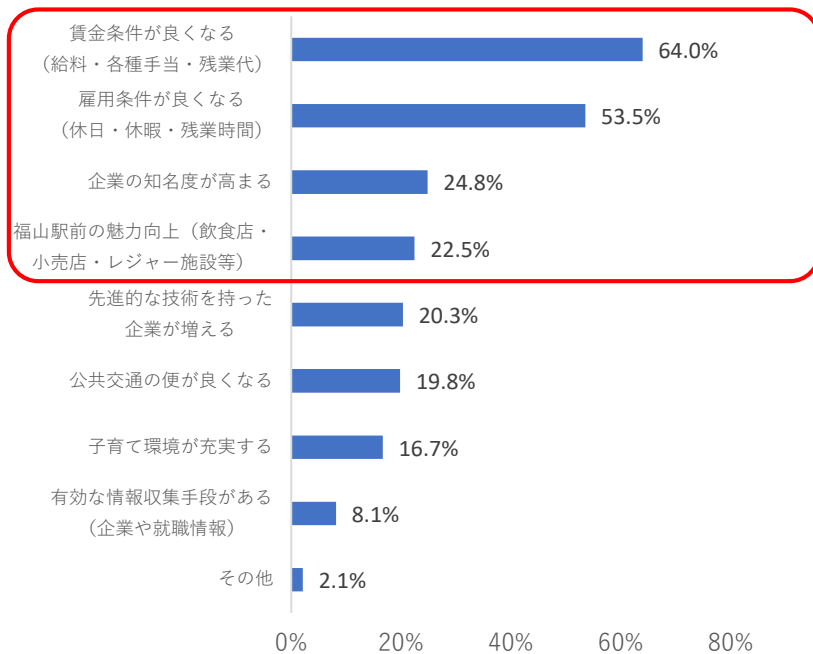


資料：福山市「市内大学生等への就職に関するアンケート調査」

4-12. 雇用の3視点の現状（企業選択のポイント）

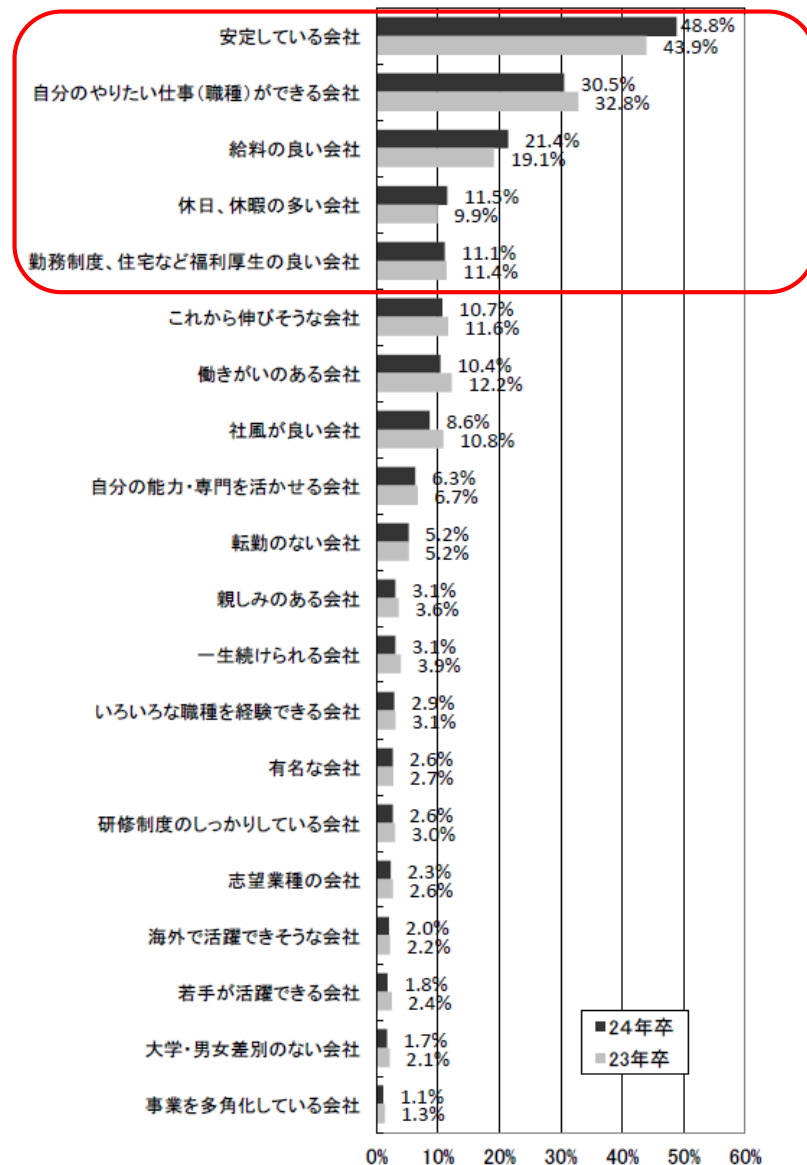
- 大学生が企業を選択する際のポイントは、「安定している会社」、「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」に加え、「給料のいい会社」、「休日・休暇の多い会社」、「勤務制度・住宅などの福利厚生の良い会社」と回答する割合が高く、近年の大学生は、安定に加え、休日・福利厚生などワークライフバランスについても重視していることが分かる。
- 市内の企業へ就職したいと条件としても、「賃金条件」、「雇用条件」が同様に高く、次いで「企業の知名度」、「福山駅前の魅力向上」なども挙げられる。

【市内の企業へ就職したいと思う条件（複数回答）】



資料：福山市「ふるさと学生応援バックアンケート調査」

【企業を選択する場合のポイント（2つまで選択）】

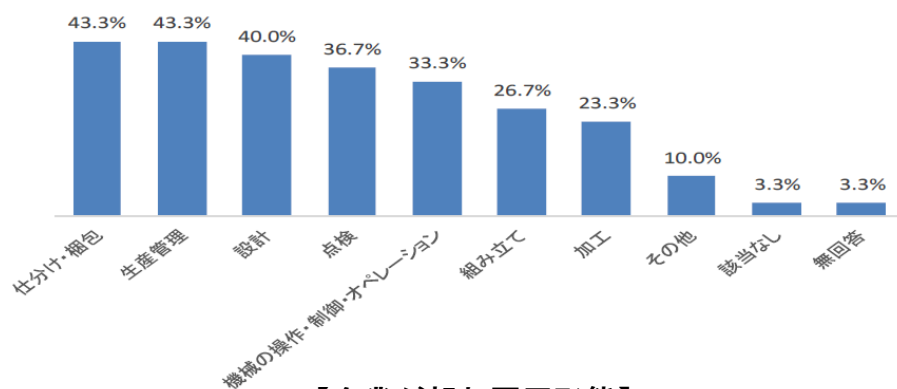


資料：株式会社マイナビ「マイナビ2024年卒大学生就職意識調査」 31

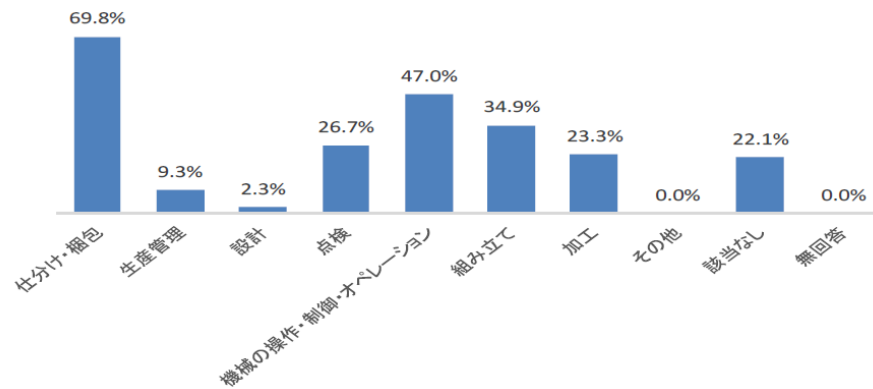
4-13. 雇用の3視点の現状（女性の雇用）

- 企業が女性に担ってもらいたい製造業の職務については、「仕分け・梱包」「生産管理」が最も多い43.3%で、「設計」「点検」などを担ってもらいたいと思う企業も40.0%、36.7%と多い。しかし女性側は「仕分け・梱包」は従事可能であると回答した未就業女性が最も多いが、「生産管理」「設計」については、多くは従事可能と感じていない。
- 企業が望む女性の雇用形態は、「月15万円超～20万円以下の一般正社員」が多くなっているのに対し、未就業女性が望む給与額は「5万円超～10万円以下」となっており、職務及び雇用形態のそれぞれの面において企業と未就業女性の間ギャップがある。

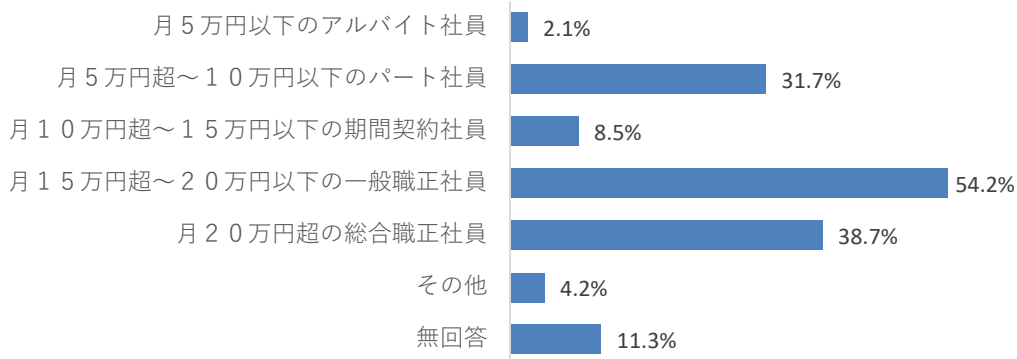
【企業が女性に担ってもらいたい製造業の職務】



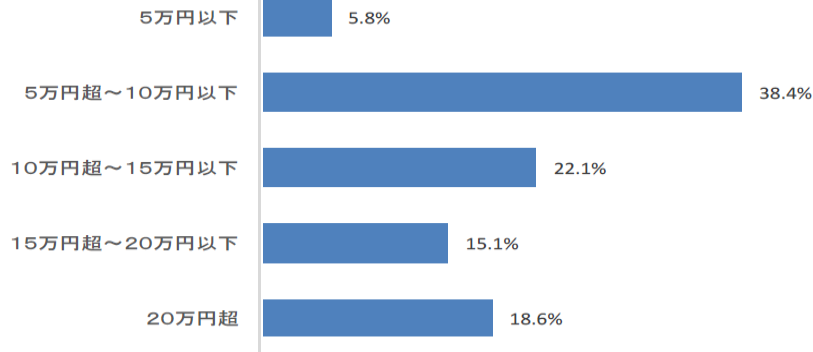
【未就業女性が可能だと思っている製造業の職務】



【企業が望む雇用形態】



【未就業女性が望む給与額】



現状まとめ

4 - 1 4 . 現状まとめ

※ は仕事と家庭の
両立支援に係るもの

【少子化(出会い・結婚)】

- 本市の未婚率は、特に25歳～34歳の割合が上昇し、未婚化が進行している。
- 結婚に前向きな人は多いが、適当な相手にめぐり会えていない。
- 女性が結婚相手に求める条件として、「家事・育児の能力や姿勢」を重視する一方、男性はあまり重視しておらず、結婚に当たって、家事・育児に対する男女の考え方にはギャップがある。
- 結婚に当たって経済的不安を感じている人は、約9割で、「結婚資金」「結婚生活のための住居」を挙げる人が多い。



< 施策の方向性 >

出会いと結婚をサポートする体制づくり、社会全体で結婚を応援する支援の充実
結婚等の障壁となる経済的負担の軽減

【少子化(妊娠・出産)】

- 不妊治療は経済的負担が理由で受けやすいと思わない人が多い。
- 出産費用の助成や妊娠中の健康診断の無償化を求める声が多い。
- 不妊治療と仕事の両立ができなかったと感じている女性が約4割おり、職場での普及啓発が実施されていないなど、不妊治療が受けやすい職場づくりが進んでいない。
- 仕事と子育ての両立が難しく、離職している人が多い。
- 小児科医師や分娩取扱医師が少ないことに加え、分娩取扱医療機関も減少している。



< 施策の方向性 >

妊娠から出産までにかかる身体的・経済的負担の軽減、安心・安全な医療提供体制の確保、
夫婦が協力し合い安心して妊娠・出産できる社会・職場環境づくり、
人材不足解消にもつながる子育てにやさしい職場づくりの推進

4 - 15. 現状まとめ

※ は仕事と家庭の
両立支援に係るもの

【少子化(子育て)】

- 保育費用・教育費・医療費など経済的な負担軽減を求める人が多い。また、経済的負担の不安があるため、理想の子どもの数を持ちたくないと考えている人が多い。
- 女性の約6割が子育てと仕事の両立が難しいと感じている。
- 父親の家事・育児の時間が母親に比べ極端に短い。
- 男性の育休取得の際に障壁がある。
- 祖父母との同居・近居が子育てや仕事のしやすさに大きく影響している。

< 施策の方向性 >

就学前児童等にかかる経済的負担の軽減，子育て中の親に対する支援の充実，
子育て世帯の見守り・支え合いの推進，親子の遊び・学び等の推進，
多様な保育・教育ニーズに対する子育てサービスの提供，
夫婦間の家事・育児の分担推進と家事の負担軽減

【雇用(市内企業の認知度)】

- 市内大学生の市内就職率は低下傾向
- 市内企業に就職する際に不足していると感じることは、「魅力ある企業の誘致」に加え、「働きやすい職場環境等の紹介」や「子どものころからの地域への愛着醸成」
- 市内に実家があるが、市外に就職した人は市内企業をあまり知らない人が多く、市内企業の情報が大学生に伝わっていないことが考えられる。

< 施策の方向性 >

企業と学生・学校等の交流機会の充実，学生への市内企業情報発信の強化

4-16. 現状まとめ

【雇用(企業選択のポイント)】

- 大学生の企業選択の際に、「安定している会社」、「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」に加え、「給料のいい会社」、「休日・休暇の多い会社」、「勤務制度・住宅などの福利厚生の良い会社」といったポイントを重視しており、近年の大学生は、安定に加え、休日・福利厚生などワークライフバランスについてが企業に求める条件となっている。
- 市内企業への就職条件は、「賃金条件」、「雇用条件」に加え、「企業の知名度」や「駅周辺の魅力向上」も重視。



< 施策の方向性 >

福利厚生の充実など学生から選ばれる企業づくり
地方で働く・暮らす魅力の発信

【雇用(女性の雇用)】

- 女性の雇用について、職務及び雇用形態のそれぞれに面において、市内企業と未就業女性の間ギャップがある。



< 施策の方向性 >

女性が希望する働きやすい職場環境づくり